

# 宮崎県教育委員会では 「いのちと人権を守り、豊かな心を育む教育」を推進しています。

- 全教育活動において、「いのち」に関連する場面があったら、各教科、特別活動など様々な機会を捉えて指導しましょう!
- これまでも行ってきた「いのち」に係る取組を、改めて「いのちを大切にする」という視点を持ち、意識的に行いましょう!
- まずは、教師自身が「いのちの大切さ」を実感し、そのことを子どもたちに伝えていきましょう!



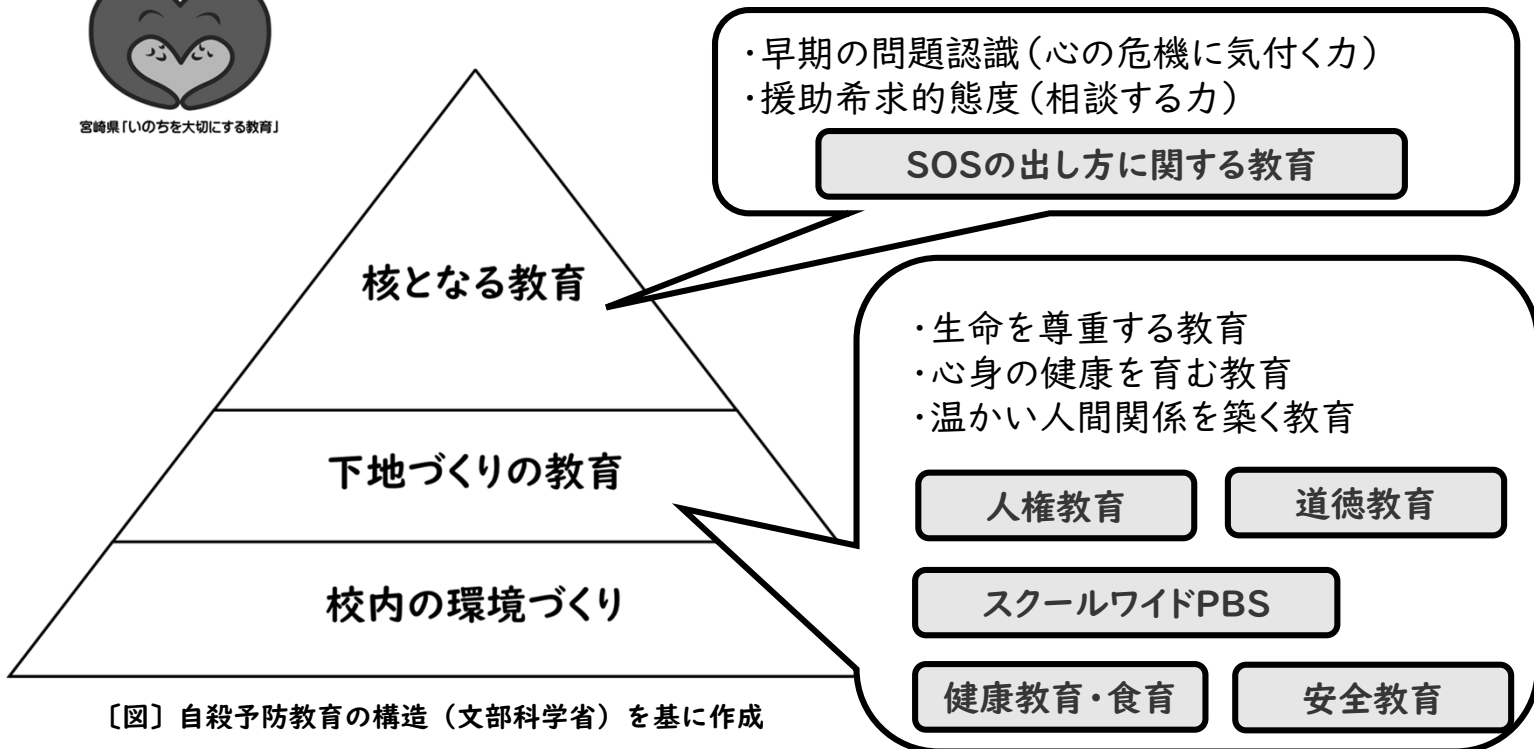
## 目指す子ども像

- 生まれてきてよかったと思い、いのちにかかわるまわりの人・ものに感謝する子ども
- 自分のいのちを大切に、いのちいっぱい生きる子ども
- いのちがつながっていることを実感する子ども

## 「いのちを大切にする教育」 構造図



宮崎県「いのちを大切にする教育」



〔図〕自殺予防教育の構造 (文部科学省) を基に作成

## 生徒指導提要 (令和4年12月) (文部科学省) から

- ★ 自殺予防につながる多様な下地づくりの授業を、児童生徒が「未来を生きぬく力」を身に付けるという視点から、生徒指導・教育相談・キャリア教育・健康教育・道徳教育・特別支援教育等を横断する重要課題として位置付け、全校体制で取組を進めることが大切である。
- ★ これらの教育活動を充実させていくためには、児童生徒が安心して学び、生活できる学校環境を整えることが不可欠であり、困ったときに相談できる児童生徒と教職員との信頼関係づくり、保健室や相談室などを気軽に利用できる場とする居場所づくりなどが求められる。

## 事例1 SOSの出し方に関する教育 ① 椎葉村立椎葉中学校

### 不安や悩みがある時の対処法を考えよう



#### 取組内容

- 相談を受けた時の上手な話の聴き方のロールプレイング
  - ・関わりの少ない聴き方
  - ・関心をもつ積極的な聴き方
- 悩みの解決方法
  - ・周りに相談する
  - ・信頼できる大人へ相談する
- セルフリラクゼーションの体験
  - ・筋弛緩法
  - ・呼吸法

#### 感想

・悩みの対処法が分かった。リラックス方法をいかしていきたい。  
 ・相談を受けたら、相手に寄り添い、相談できる機関などを教えてあげたい。  
 ・関心をもって聴かれることで安心感が生まれて良かった。



## 事例2 SOSの出し方に関する教育 ② 都城市立大王小学校



### 相手の気持ちを考えた話の聞き方

#### 取組内容

高学年を対象に、友達の悩みや心配事を聞くときの話の聞き方について、ワークショップ形式で学習しました。高学年で実際に多い悩み事をテーマにして、傾聴訓練を行いました。

#### 感想

友達の悩み事や心配事の相談は相手の気持ちを理解して一緒に考えてあげることが大切だなと思った。相手のことをちゃん思っって発言することで相手の悩みがやわらぐのかなと感じた。



文部科学省の通知では、SOSの出し方に関する教育を少なくとも年1回実施するなど積極的に推進することが示されています。

## 事例3 人権教育 ① 高鍋高等学校



### いのちに関する図書コーナー

#### 取組内容

「命」や「生きること」、「人間らしさ」について考えられるような図書の展示コーナーを図書室に設けるとともに、ポスターで啓発をしました。

#### 感想

・不自由なく生活できる今は、幸せなんだなと思った。  
 ・動物の殺処分の話を読んで、人間のエゴを感じた。  
 ・生徒が自他を尊重し、人生を前向きに考える機会となった。



全教育活動において、「いのち」に関連する場面があったら、各教科、特別活動など様々な機会を捉えて指導しましょう！



## 事例4 人権教育 ② ピア・サポート活動 宮崎市立瓜生野小学校

### 仲間意識を醸成し支えあう活動



#### 取組内容

学校に集う仲間としての自覚と、発達段階に応じた学年ごとの役割を意識させながら、よりよい仲間づくりを目指しています。今年度は、ピア・サポート集会で呼び掛けてキャラクターを作成したり、異学年と一緒に遊ぶ「スマイルの日」を設けたりして、支えあい、助け合う活動に取り組んでいます。

#### 感想

困っている友達をただ助けてあげるんじゃなくて、どうやれば困っている人がうまくいくなかをいっしょに考えようになった。



## 事例5 人権教育 ③ 多様性とは？ 赤江まつばら支援学校

### 多様性について考える

生徒たちに「多様性とは」「違いを認め、尊重し合うこと」「自分で判断することの大切さ」を伝えるために授業を行いました。

#### 取組内容

- アニメ映画の実写版の主演俳優の肌や髪の色が違うことがネット上で論争になっていることを紹介
- 誰が、何を問題と感じているのか背景を想像する。(差別意識、先入観等)
- 主演俳優に必要な資質について改めて考え、意見を発表する。(表現力、容姿等)



#### 感想

(生徒)  
印象や思い込みがある。差別に気付いていないと思った。  
(職員)  
生活経験が限られた生徒たちだが、大人たちに囲まれ、人権意識が涵養されていることを感じた。



## 事例6 人権教育 ④ 生徒による人権啓発 都城西高等学校

### 人権コンサート



#### 取組内容

いのちの教育週間の2日間、昼休みに音楽部生徒によるミニコンサートを実施しました。また、学校の玄関に人権に関する標語・絵画・ポスター・書道等の作品を展示し、生徒・職員の投票により優秀作品を決定しました。この取組により、出品・演奏した生徒の想いや姿を認め合い、お互いに語りかけることによって、生徒たちが互いにつながっている存在であることを理解できる取組となりました。

### 人権作品展



#### 感想

人権コンサートを迎えるに当たって、まず選曲が難しかった。しかし、メンバーと話し合いを続け、選曲や演奏方法を工夫して、しっかり発表することができた。また、多くの人が盛り上がりくれたので、思い出に残った。



## 事例7 道徳教育 ① 宮崎市立広瀬北小学校



「命や絆を大切にする」宮崎県道徳教育読み物資料集の活用  
【多くの生命に支えられて】資料「ありがとうぶうた」

#### 取組内容

主人公が、口蹄疫の発生やそれに伴う殺処分を通して、命の尊さや生命のつながりについて考えるという話を基に、命あるものを大切にしようとする心情を育むことを目的として授業を行いました。口蹄疫を理解させるに当たり、「宮崎県口蹄疫復興メモリアルサイト」を活用し理解を図りました。

#### 感想

命は一つしかない、未来へとつながるもの、支えられているものであると感じた。



## 事例8 道徳教育 ② えびの市立上江中学校



「命や絆を大切にする」  
宮崎県道徳教育読み物資料集の活用  
【地域に生きる】資料「ミヤマキリシマ」

#### 取組内容

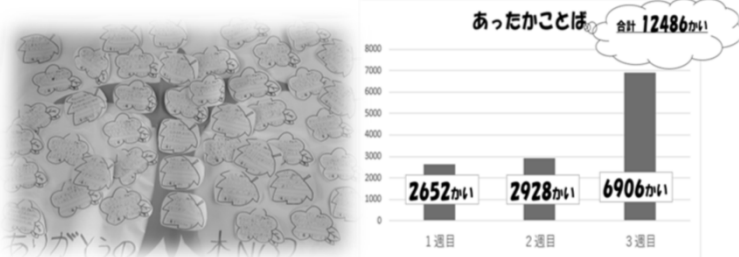
主人公が、新燃岳の噴火に負けずに生きる「ミヤマキリシマ」と、困難な状況であっても地元で生き続ける祖父のことを重ねるとい話を基に、地域を大切にしながら生き続けることの崇高さに気付かせることを目的として授業を行いました。登場人物の気持ちに寄り添うよう、役割演技を取り入れて考えました。

#### 感想

お互いの気持ちを理解すること、住んでいる地域のよさに気づき、大事にしていくことが大切だと思った。



## 事例9 スクールワイドPBSを通した取組① 高原町立狭野小学校



### あったか言葉を使おう

#### 取組内容

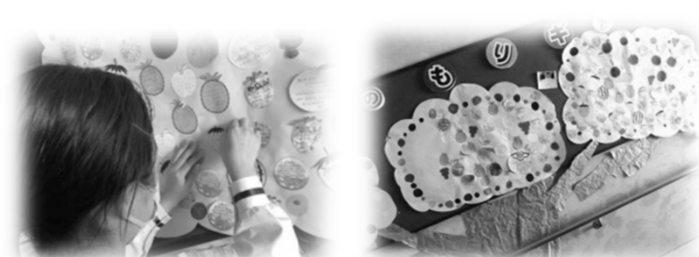
まず、「あったか言葉」について、どんな場面で、どんな言葉をかけたらよいか、具体例を挙げて示しました。次に、授業中や休み時間に「あったか言葉」をかけてもらったら、「ありがとうカード」に記入し、ポストに入れるようにしました。ポストに投函されたカードを掲示したり枚数の推移を示したりすることで、「あったか言葉」が増えることにつながりました。

#### 感想

運動会の時期だったため、励ましや応援の「あったか言葉」がたくさん聞かれた。



## 事例10 スクールワイドPBSを通した取組② 日南市立東郷小中学校



### いいねの木

#### 取組内容

児童生徒が主体となったスクールワイドPBSに取り組んでいます。まず、児童生徒総会において、良い行いをした人や良好な人との関わりを学校全体に広げる「いいねの木」の活動を決定しました。具体的には、該当の行動を見かけたら、付箋や色紙に記入し、階段や廊下の「いいねの木」に貼るようにしました。さらに、委員会活動において各学級の担当が、その日に掲示された付箋や色紙の枚数を報告するようにしました。

#### 感想

「いいねの木」の活動を通して、身の周りの人の良さや自分の良さを見つけることができ、学校生活がより良いものになった。



## 事例11 健康教育・食育 ① 本庄高等学校



### 食に関する実践力向上支援

#### 取組内容

令和5年度から、食から始める健康「元気なみやぎっ子」食育推進事業が始まり、県立学校では学校への講師派遣により、食育の推進を支援しています。

本庄高校では、部活動生を中心に食事について自分チェック、食べる必要性、賢い食べ方、それぞれに必要な食事量について講話と演習を行い、体づくりの基礎について学習しました。

#### 感想

普段のトレーニングや練習も大切ですが、やはりベースとなるのは、日頃の生活、食事が基本だということを再確認できた瞬間でした。また、ぜひ、事業を活用したい。



食育推進事業では、食育推進校の指定や食生活改善啓発イベントを実施しています。

詳しくは、県スポーツ振興課健康教育担当へお問い合わせください。

## 事例12 健康教育・食育 ② 串間市立本城小学校



### 性に関する指導

#### 取組内容

令和5年度から小学校まで拡充し、継続実施となった「生きる力」を育む健康教育推進事業の専門医派遣を活用し、産婦人科医による講義を行いました。

今年度は、主に二次性徴について学び、胎内の様子や出産についてのDVD視聴、妊婦体験も実施しました。

#### 感想

私が生まれてきたことは、自分では当たり前だと思っていたけれど、本当は、奇跡的に生まれてきたんだと思った。赤ちゃんの人形を抱いてみて、少し重いと思った。また、妊婦さんの体験で、こんなに重いのにそれをいつも抱いているからお母さんはすごいと思った。



「性に関する指導参考資料」を改訂しました。県教育研修センターのHPからダウンロードできます。また、「生きる力」を育む健康教育推進事業の専門医派遣（小・中・義務教育学校・県立学校対象）も4月に希望調査を行います。

## 事例13 安全教育 ① いのちについて考える集会、予告なし避難訓練 延岡市立南中学校（セーフティプロモーションスクール認証校）

### 南中安全の日



#### 取組内容

毎年、南中学校では 7月14日を『安全の日』とし、海や川の安全、そして命について考える取組をしています。

#### 感想

・今回の授業で海や川の恐ろしさについて知ることができた。延岡市の過去の水難事故の話聞いて、遊泳禁止の川で泳がないこと、泳ぐときにはライフジャケットを着用するなど、水難事故を未然に防ぐためにできることやこれからの生活に役に立つことを知ることができた。

・私は、今日の話聞いて川はとても楽しいところだけど、本当はとても怖い場所なんだと改めて思った。もしものことがあった時には、あせらず落ち着いた行動をとることが大切だと思った。次から川に行くときには、今日習ったことをしっかりと頭に入れて行動したいと思った。



### 自分で考え行動する防災教育



#### 取組内容

南中学校は海岸線から約300m、海拔7.5mに位置しています。そのために大きな地震が起き、津波が発生した場合には、周りから遮断されてしまうおそれがあります。また、緑ヶ丘地区の一時避難所にも指定されています。通常は、生徒にも事前に連絡をし、避難訓練を実施していますが、有事の際に想定にとらわれず、臨機応変に対応できる力を育むため、生徒への事前連絡をせずに訓練を実施しました。

#### 感想

・避難訓練で、前からの準備が一番大切だと思った。そして、すばやく避難することが大事だと思った。

・今後、宮崎は大きな地震がくるといわれているので、日頃からいつ地震がきても大丈夫なようにしっかり準備しておくように心がけたい。



## 事例14 安全教育 ② 地震・津波を想定した避難訓練、AED講習会 延岡工業高等学校（セーフティプロモーションスクール認証校）



### 地域住民との連携した合同訓練



#### 取組内容

地域住民の方々と南海トラフ巨大地震を想定した合同訓練を行いました。緊急地震速報を鳴らし、生徒は2分間机の下で身の安全を確保しました。津波警報の放送後、避難場所である各校舎3階へ避難し、生徒・職員の安否確認の訓練も行いました。地域の方々には、自宅から学校までの避難時間を計測していただきました。

その後、自衛隊による災害救助訓練を見学し、防災意識の向上や地域の防災拠点としての役割を確認できた取組となりました。

### AED/心肺蘇生法講習会

#### 取組内容

延岡市消防本部の御指導の下、先生方と部活動代表生徒が受講しました。

#### 感想

講習では、倒れている人への声のかけ方や、たくさんの人に協力を求めること、心臓マッサージの方法やAEDの使い方など多くのことを学んだ。今後の生活でこのような場面に遭遇したら、冷静に対応し、友達や家族の命が助けられるよう、講習会で学んだことを生かしていきたい。



セーフティプロモーションスクール (SPS) とは、「地域の関係機関等と連携して、学校安全の重要性を共感し、組織的かつ持続可能な取組が着実に実践される条件が整備されている学校」であることを、日本セーフティプロモーションスクール協議会が認証する制度です。具体的には、犯罪やいじめ対策、自殺予防を含めた生活安全や交通安全、災害安全の包括的な安全推進を目的とした活動のことで、



## 「宮崎県いのちの教育週間」(7月1日～7日)実践事例から抜粋

### 小学校の実践事例

- 授業参観で「アサーティブネスの自己表現」に取り組んだ。
- いのちを支えるプロジェクトキャンペーンソング「あかり」を聞いた。
- 着衣水泳を体験した。
- 「生命(いのち)の安全教育」～たいせつなからだ～ 文部科学省の教材を活用した。
- PTA行事で「魚のつかみどり」を行い、調理して「いのち」をいただくことで、いのちの大切さを学んだ。
- 「正しいインターネットの使い方」について学んだ。
- 「家族について考えよう」～結婚～LGBTQについて～



### 中学校の実践事例

- 哲学対話で「いのち」「いじめ」について考えを深める取組を行った。
- 「奇跡の生命」をテーマに、ショートムービー「ゆりちかへ」を視聴した。
- 栄養教諭による「弁当の日」に関する取組を行った。
- 担任や養護教諭、栄養教諭とがんに関する教育に取り組んだ。
- 校内放送を使い、全国中学生作文コンクールの作品を聞いた。
- 「夏服の少女たち」のDVDを視聴し、戦争とは何か、命の尊さについて考えた。
- IメッセージやYouメッセージを使った会話で望ましい交際のあり方について考えた。
- 臓器移植について学習し、家族の臓器提供について考えた。
- 友人を「さん」づけて呼んでみよう週間を実施した。



### 高等学校の実践事例

- 「悩まずアタック!ー脱・いじめのスパイラルー」(法務局作成)を視聴し、差別について考えた。
- 放送部員による谷川俊太郎「生きる」の朗読を行った。
- 「口蹄疫を忘れない」全校集会を実施し、職員や家畜保健所の関係者の話を聞いた。
- 消防本部にて救命講習に参加し、修了者は「救命講習修了証」を交付してもらった。
- 「犯罪に関わり合わないために(闇バイトについて)」の講話をしてもらった。
- 「命はだれのものか」(柳澤桂子)を読み、いのちについてグループで話し合った。
- アニメ「めぐみ」(北朝鮮拉致問題)のDVDを視聴し、かけがえのない命について考えた。



### 特別支援学校の実践事例

- (幼稚部)カブトムシの幼虫を数ヶ月間飼育し、命の不思議さとお別れを体感した。
- (小学部)お母さんのお腹から誕生したことを知る。
- (小学部)「ぼくらはみんないきている」の歌詞を振り返り、いのちについて考えた。
- (小学部)「防災リュックの中身を確認しよう」をテーマに中身の確認と必要性について考えた。
- (中学部)性被害に遭わないために、不審者対応学習を実施した。
- (高等部)身のまわりの危険からケガ・事故の予測と対応を学んだ。

### 外部講師を活用した実践事例

- ワン&オンリー宮崎いのちの会による講話「いのちについて考えよう」
- 助産師(か母ちゃっ子クラブ)による講話「命のはじまり」
- 宮崎法務少年センターによる薬物乱用防止教室
- 動物愛護センター「いのちの教育」
- ピンクリボンアドバイザーによる「命の大切さについて考える学習」
- みやざき被害者支援センターによる「いのちの大切さを学ぶ教室」
- 宮崎県弁護士会による「いじめについて考える」集会
- フェニックス自然動物園園長講話(遠足)
- スクールカウンセラーによる講話「ストレス対処法」
- 宮崎県ナースセンターによる「看護の出前授業」
- 保健所の獣医師による講話
- レインボビュー宮崎による「LGBTについて学ぶ」講話

これまでの実践事例を研修センターHPに掲載しています。参考にして下さい。

